

文化のオーケストレーション



～個性の集い～



都立富士高等学校 青山 日菜子

2020年に向け期待の高まる東京オリンピック・パラリンピック。世界挙げての一大イベントがせっかく日本で開催されるのだから、何かしらの形で関わってみたいと思っている方が大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。私もそのひとりです。しかしながら私はスポーツ選手ではありませんし、外国語に堪能というわけでもありません。そんな私や同じ境遇の方々が東京オリンピック・パラリンピックに関わることのできる機会のひとつが、『東京 2020NIPPON フェスティバル』です。

『東京 2020NIPPON フェスティバル』とは、日本の文化を発信することで人々の交流の場をつくり、共生社会の実現を目指す東京 2020 大会の公式文化プログラムです。この度私は文化プログラムプレスセンターの高校生記者の一員として、『東京 2020NIPPON フェスティバル』のコンセプト・マーク・概要が公表された公式記者会見取材させていただきました。

2020年、日本には世界中の注目が集まり、日本という国を大勢の方に実感していただくこととなります。世界から見た日本はどのような国でしょうか。その特徴のひとつに、東西の文化を咀嚼し理解しているということが挙げられます。

日本文化の中には外国の文化を吸収し、日本風にアレンジしたものが数多く存在します。このことをマイナスに捉える使う人もいますが、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、文化・教育委員会の青柳正規委員長は、日本人はもっとこのことを誇りに思うべきだとおっしゃいます。青柳正規委員長のお話によりますと、日本人がこういった文化を創り上げることができたのは、海の向こうの異なる文化を受けとめる柔軟性と、自国の風土を尊重する心を持っているからであるということだそうです。そして、だからこそ日本は世界全体の架け橋になることのできる国である、とおっしゃいました。

つまり東京オリンピック・パラリンピックは、日本の文化を世界へ発信することで架け橋としての特性を最大限発揮し、外国からのお客様をおもてなしできる絶好の機会と言えるでしょう。

では私たち日本人は何を指針に文化を発信し、交流していけばいいのでしょうか。そこで青柳正規委員長からいただいたお言葉が『オーケストレーション(Orchestration)』です。これは、オーケストラでそれぞれの楽器から奏でられる全く違う音色が合わさって素晴らしい音楽になるように、多種多様なモノたちがそれぞれの個性を失うことなく集まり、ひとつの大きなまとまりとなる、ということだそうです。

外国からの文化を受け入れてきた先人たちのように、現代に生きる私たちも世界各国の個性を尊重し、多様性に満ちた世界単位の文化をスポーツと文化の祭典で新たに築き上げましょう。